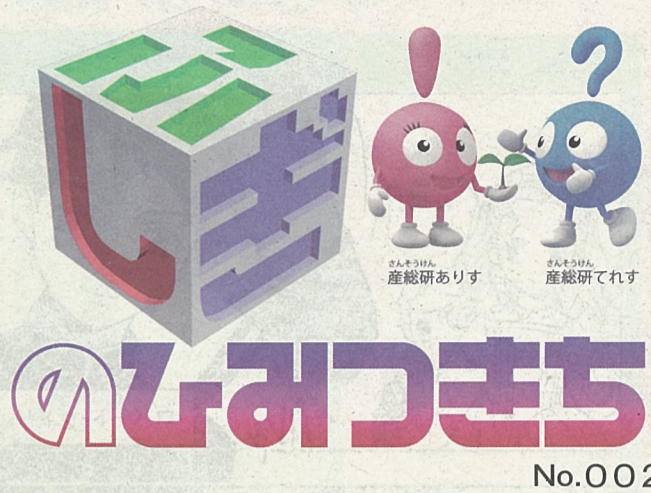


今回のテーマ

くらしの中のプラスチック



いろいろなものに利用されて便利だけれど、そのごみが環境を汚しています。私たちに何ができるでしょうか。

私たちが食べる野菜や魚は、生産者の手から、食品加工工場で調理されたあと、お店に運ばれ家庭にやってきます。食べ物を運びやすく、傷をつけず、長持ちさせるために、たくさんのプラスチック製の容器や包装が利用されています。

この便利なプラスチックを使った後のごみが、大きな問題になっています。きちんと処理されなかったごみは、街や山を汚し、川から海に運ばれて海岸に流れついてたまっていきます。



◇ウミガメも被害

ウミガメがごみを食べ物と間違えてのみ込み、死んでしまうこともあります。海岸のごみは処分するのに多くの費用がかかります。また、ちゃんと処理場に持ちこまれたごみでも、とくに石油から作られたプラスチックの焼却は、地球温暖化を進める原因にもなっています。

このようなごみ問題の解決の

ため、「3R+リニューアブル」という取り組みが進められています。3Rとは、リデュース(ごみを減らすこと)、リユース(繰り返し使うこと)、リサイクル(ごみを原料にして再び製品を作ること)をいいます。

◇3R+リニューアブル

リニューアブルは、便利なプ

ラスチックを、今までのように石油から作るのではなく、植物や菌類のような自然の方で作ることで。また、燃やさなくても微生物で分解されるプラスチックも開発されています。

それでも海プラスチックごみは減りません。自然の中へ捨てないだけではなく、プラスチックの利用をもっと減らすことが大切なんです。この4月から、

使い捨てプラスチックスプーンなどを使わないようにするための新しい法律もできました。

みんなは、学校の掃除、環境学習、ボランティア活動などで、ごみを減らしリサイクルを進めることの大切さを知っています。街や海をきれいにする方法を一緒に考えていきましょう。

今日の先生



小寺洋一さん

「環境科学の博士です。小学生時代から理科大好き！鉄棒やなわとびなど体育全般が不得意」

産業技術総合研究所(産総研)広報部。専門は、ごみを資源に変える技術。出身小学校は滋賀県大津市立膳所小。

さんそうけんって？

日本で最大級の公的研究機関なんだ。茨城県つくば市など、全国11か所の研究拠点があって、日本の産業や社会に役立つ技術について研究を進めているよ。

キッズむけウェブページはこちら →
(さんそうけんサイエンスタウン)

